

白癬菌抗原キット（販売名：デルマクイック® 爪白癬）の臨床活用に関して

日本皮膚科学会皮膚真菌症ガイドライン委員会
日本皮膚科学会医療問題検討委員会

日本皮膚科学会では皮膚科臨床現場における本検査キットの適正使用について専門家を交えて検討を行ったのでここに報告する。

臨床現場での本キットの位置づけについて

爪白癬診断キットは臨床試験の結果を鑑みると、KOH直接鏡検の補助検査としての十分な精度を有すると考えられる。しかし、爪白癬の診断においてはKOH直接鏡検が標準的な検査法であり、本キットはあくまでKOH直接鏡検の補完として使用されるべきである。

非専門医による使用が増加することが予想される中での本品の取り扱いに関して

爪白癬は基本的には皮膚科医が診療することが望ましい疾患と考える。非皮膚科医が爪白癬の診療を行う場合でも、本キットはKOH直接鏡検の補完として使用されるべきである。やむを得ない事情で本キットを最初から使用する場合は、その理由を詳記し、結果が陽性の場合には皮膚科への診療依頼を検討すべきと考える。

Q1. 「爪白癬の診断においてはKOH直接鏡検が標準的な検査法であり、本キットはあくまでKOH直接鏡検の補完として使用されるべき」とあるが、KOH直接鏡検と本キットは具体的にどのように使い分けるのか。

A1. KOH直接鏡検では陰性であったが、それでもなお臨床的に爪白癬が強く疑われる場合が本キットの適応と考える。

Q2. 「やむを得ない事情で本キットを最初から使用する場合は、その理由を詳記し、結果が陽性の場合には皮膚科への診療依頼を検討すべきと考える。」とあるが、やむを得ない事情について具体的にどのようなものが考えられるか。

A2. KOH直接鏡検のための顕微鏡の設備がない場合や皮膚科専門医がおらずKOH直接鏡検が技術的に実施できない場合等、KOH直接鏡検が実施できない場合と考える。